



世界の舞台を目指して



かるべ しゅんじ 苅部 俊二

1969年5月8日生まれ、横浜市南区出身。
元オリンピック陸上競技選手
(1996年アトランタ五輪、
2000年シドニー五輪出場)
現在は、法政大学スポーツ健康学部教授、
日本陸上競技連盟短距離部長

陸上競技を始めたきっかけ

走ることは好きでした。小学5、6年の時はサッカーをしていたので中学校でもサッカー部に入ろうと思っていたので。

しかし、なぜか何となく文科系の部活に仮入部してしまいました。そして、すぐに陸上競技部に入りなおした感じです。あまりこれといった理由はなかったのではないかと思います。中学生まではあまりモチベーションが高くなかったです。

陸上競技の特徴は？

陸上競技はリレーや駅伝などもあります。基本的には個人競技です。自分で頑張ったことや改善したことが自分自身に直接的に反映します。同様に敗北や失敗も自分にかかってきます。ですから、自分自身を熟知することが大切です。自らを鍛え、磨いていくという特徴があります。これは日本の「道」の考え方に似ています。自分自身がどこまでできるか、高められるかという自己研鑽に努める競技であると思っています。

オリンピックに出場した時の裏話や想いでは？

裏話はあまりないのですが、私はシドニーオリンピックが最後のオリンピックとなりました。史上最速と呼ばれるメンバーで4×400mリレーを組み出しました。アトランタオリンピックで5位入賞を果たしていたので、シドニーオリンピックの目標はメダル獲得でした。

しかしながら、第2走者が他国の選手と接触しバトンを落とし、準決勝最下位で決勝進出を逃してしまいました。第2走者の選手は

現在の活動とこれから

自分を責め、私たちに謝罪してきましたが、第1走者であった私がもう少し速く走れていたら接触はなかっただろうし、私の責任も大きいと感じていました。私はシドニーオリンピックで代表引退を決めていたのですが、悔しかったのですが、彼が「次のオリンピックまで続けてください」と泣きながら私に頼んできたことは嬉しかったですね。その彼は、次のアテネオリンピックでメダルには届かなかったものの4位に入賞してくれました。これも嬉しかったです。

現在は、母校である法政大学で陸上競技部の監督をしています。また、日本陸上競技連盟の情報戦略部のリレー担当として、リレー種目の強化にあたっています。今まで私がやってきたことや学んできたことをこれからの競技者たちに伝えていければと思っています。

そして、私の指導している競技者が、一人でも多く世界の舞台に立てれば、と思っています。私が立つたあの世界の舞台に立つてほし



陸上競技ファンへのメッセージ

ぜひ、陸上競技場に足を運んでいただき観戦していただきたいです。

特に2020年は東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。陸上競技だけに限ったわけではありませんが、世界トップの技やパフォーマンスを間近で観られる機会はそうありません。

世界の超人たちのすごさを肌で感じてほしいですね。



子どもたちへのメッセージ

夢や目標を持って、それに挑戦してほしいです。

ただ、夢がまだない人やわからない人、はっきりとしない人もいます。今はそれでもいいと思います。焦って見つける必要はありません。さまざまなことにチャレンジしていると、いつか必ずやりたいことが見つかるはずですよ。

い。そして、私が成し得なかったメダル獲得をしてほしいと。ただ、そのような場に立てる競技者はそれほど多くはありません。ですから、一人一人がそれぞれの目標を達成してほしいと考えています。また、そのサポートするのが、私の役目だと思っています。